



12年前日記

2000年2月4日（金）

山田夫妻

『12年前日記 2000年2月4日(金)』

【2000年2月4日(金)】*2012年2月4日(土)記

早朝3時30分、草木も眠る丑三つ時よろしくまだ真っ暗な不夜城バンコク外れのモーチット2着。東京なら葛西とか。第2の故郷バンコクに三度目の里帰り。チェンマイ帰りの男、ラチャブリ帰りの男、メソト帰りの男。

4時前後、メータータクシー(160B)で『Muang phol mation hotel』にチェックイン(400B)。このホテル代でいられるのはなんと本日12時、後8時間後まで。むかつくので一眠りしたらチェックアウトしてやる。

サゲマンカレンと別れを告げてからようやく運が向いてきたのか、幸先よく今日は金曜日。格安航空券だからエアインディアは確か火の夜と金の夜にしか運行していないはず。今日の昼にバンコクのエアインディアオフィスに行って、変更して貰えばいい。きっと空席で当日予約も楽々だろう。確かエアインディアは昨年末にハイジャックがあったから人気激薄。さすがサゲマンパワー。

この急ごしらえの土壇場にきて、油断して取っ捕まりたくないから、ヤサをコロコロ替えるんだ。バンコク戻ってきたら悲しい習性でついついこんなことばかり。連泊なんて面倒臭がり屋さんの手抜きか、来るならいつでも来い怖くないぜな連泊に至っては匹夫の勇に過ぎない。

フッ、こんな与太言うのももう今日で最後なんだな。2ヶ月近くよく飽きずに言い続けてきたもんだよ、お疲れ様。今日帰国するとも知らず、いや、知ってたのに、昨日思わず銀行に行ったせいで、パーツがだぶついているのもある。日本円に替えるのはレートが悪い。次来る時にとっておく案は二度とタイなんかに来ないかもしれないから却下!

9時、起床。

10時には予定より少ない6時間滞在でチェックアウトして、近くが一番よかった気がする『Wendy house hotel』にチェックイン(450B)。まあ、今日の夜、20時過ぎ、約10時間後にはまた早期チェックアウトしちゃうんだけどね、予定では。最後まで、1時間45B程度の大盤振る舞い許してよ。駅やドライブインのトイレ、たかが150回分くらい。でも新品同様のカメラセットとか盗まれるのも、かと言って持って歩くのもいやだも〜ん。

10時30分、路肩の屋台でタバコ(31B)を買って、メータータクシーでエアインディアのオフィスへ(70B)。今日の好きな言葉は二日連続善は急げとばかりにエアインディアのオフィスでチケットを今晚の便に変更。善は急げスピリット。(2012年の俺。ちょうどハイジャックされたばかりで人気なしだったエアインディアはガラスキで当日の予約変更もバッチリ)。立つ鳥は跡を濁さず。そんなにしてまで、本当はずっとお家に帰りたかったんだね、俺ってば。かわいい。

エアインディアのオフィスを出て、懐かしい音にふと上を見上げるとスカイトレインが。再会を果たしたスカイトレイン(15B)に乗って、古本屋へ。本日帰国するのに本を密輸するわけには行かないので、古本を叩き売り売り飛ばし。そんなよき心掛けの人間に、50Bとは足元み

やがって。きっといつか見返してやる、もちろん古本売買で。もし次またバンコクに来るときは、俺も一端の古本屋だぜ。その覚悟を見せるため、身軽になったばかりなのに、340B分の古本を買い込む。商売の種だから。ちょっとくらいの密輸なら。日本の古本屋で買った方が安いけど、同じ本でもわざわざタイで買いつけましたった言ったら、ありがたくてプレミアムがつくじゃん。

輸入した古本は●B、輸出した古本は●B。全部で収支決算は●円の貿易赤字。貿易摩擦おきちゃうよ〜。古本収支決算だけ発表します。

スカイトレイン(20B)に乗って、紀伊国屋へ行き、『スピリッツ』(176B)を買い、昼マック(100B)。

13時30分、スカイトレイン(15B)に乗って、ホテルへ。最後の昼寝。

17時、寝すぎた。でも、急げばまだ間に合う。ただひとつだけ思い残したことがあるのだ。タイの最後の晚餐はもち8番ラーメンへ(107B)。

18時、ホテルに戻る。最後の、今度こそ本当に最後のパッキング。忘れ物なし。

20時30分、本日2度目のチェックアウトにもいいこと、半額返金なりもなし。

21時、ホテルからしばらく歩いたところにあるエアポートバス乗り場から、ほぼ時刻表通りに来た、エアポートバスに乗る(70B)。

21時30分、無事にドンムアン空港へ。出発時刻の3時間前だが、さっさと出国手続きを済ませる。こんな国にこれ以上一秒でもいたくない。

ハイ、これで第三国に突入。そういえばすっかり忘れていた空港使用料(500B)を払うと、そんなに残らなかったパーツを使い切るため、免税店を冷やかし、タバコ5個(170B)。腹も減ってないのにピザハット(89B)を喰らう。たまたま目に付いた高い水(30B)を買って飲む。安い水と変わりなし。

折り悪く、買い忘れていたお土産代がまったくなくなっていた。まだ25B分くらい残っている高い水をお土産に欲しい人がいるだろうかと考えたりして、更に時間を潰す。

24時40分、バンコクを飛び立つ。もしかしたら人生最後かも知れないバンコクの町並みを眺める(2012年の俺、この後、●年と●年にタイに行きました。もちプライベートで。え、古本屋って何のことでしたっけ?)。

エアインディア、がらすき。スッチーに好きなところに座っていいと言われる。エコノミー料金でビジネスクラス。スッチーの太股に腰掛けながらタバコも吸えた。最後の心憎いプレゼント。もう十分、ハイジャックプレゼントとかいらぬ。書いているのは俺本人じゃなくて、俺が書いたのを勝手にアップしている人かもよ。

日本に帰国するにはまだ暫し時間があるから、ビジネスクラスで今回のビジネスぶりを振り返った。

当初の最終目的、従軍取材なんて夢のまた夢。難民キャンプすら見てないし、近くには行ったけどね、エヘン。カレン族すらひとりも見ていない。もしかしたらメソトで見かけたかもしれないけど。んなことないか、チェンマイでカレン族にあったか、ノーパンで、うんこ漏らした直後だったからね。

そもそも内務省でたらい回しされた挙句、取材パスは貰えず、代わりにあんな紙切れ一枚、「おまえはいったいなにがしたいんだ」と。まさに的を射た、今回の初めての取材旅行を一言で言い表す、なかなか含蓄を含んだ言葉とも受け取れる、裏読みすれば。

そして、神の差配としか思えない、ラチャブリ病院も間一髪アウト、あそこで寝ずに車をチャーターして飛ばし、後10時間早く着いていれば、大スクープをものにできた、できたろうか、う〜ん。

てか、大スクープをものにする価値が分からん、運動会じゃあるまい。早ければ早いほどいい、段々よくなるから最初は騙されたと思ってって超早漏の言い訳風口説き詐欺文句みたい。

メソトでもバイクにまつわる鍵なくし事件と交通事故事件を起こしたのみ。

従軍取材はもちろん、難民キャンプ取材どころか、●難民キャンプの位置だけおぼろげにたぶん分かったくらい。取材パスがあってもなくてもどっちも同じ結果を残すことに。

そして何より、初取材で、写真一枚、ビデオ一秒も撮ってないのは、何かのギネス世界新記録ではないだろうか。

結局、ずっと背負って、カメラバックの背中部分に塩を吹かせただけで終わった、後、カメラブラで乳首残して日焼けする芸当を見せつける。ちょっと変わった観光旅行で、罰ゲームで重い荷物を背負って、新品のフィルムやビデオテープを新古品にしたのみ。

マジで撮った写真は0枚、回したテープは0分(この期に及んで練習撮りしたのは除く)、イエーイ、世界記録に挑戦。つまりせっかく覚えたカメラやビデオカメラのにわか仕込みの腕を振るうことなく、ノーシャッターチャンス。

取材の写真撮りに行ったんだ、観光写真撮ってどうすんだ、それじゃあ、なにかい、俺の2ヶ月は一風変わった観光旅行とでも、取材風観光写真とまで？ そうだとしても、もったいないじゃん、フィルムやテープが。

そもそも今の今まで黙っていたけど、シャッターを切り続ける、ビデオを回し続ける、どちらもファインダーを覗きこむって行為がデバガメみたいで生理的にやだったもん。生粋の機械オンチゆえカメラマンはやめた経緯ってのを思いつく、カメラマンってバカっぽいし。

筆一本で勝負したいから、本当はカメラやビデオはいらない、触るのも汚らわしい。別にいいもん。俺はカメラマンやビデオカメラマンじゃない。ビデオジャーナリストとか抜かしてなかったっけ？ まだそんなこと言ってるの、古い〜。どんな仕事かはよく知らない。なしの方向で。

俺の武器は鉛筆と紙。今はパソコンがあれば、事足りる。いや、当時の家計簿と気まぐれな日記とおぼろげな記憶があれば、それでいい。あんまり資料がいっぱいあったり、記憶が鮮明だとネタが多すぎて書き切れない、言葉が文章が溢れすぎちゃうからね。いつでもどこでもピンピンにバイアグラ渡してどうすんだ。逆に出すだけ出し切らせないと。

かけがいのない最大の収穫は俺が生まれつき自称プロ戦場特派員じゃなくて、生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だったと気付いたこと。これに勝る成果なし。何やら自称プロ戦場特派員引退宣言みたいだが、そう思うなら思えばいい。

カレンは前座、真打ちはこれから、まだまだ出し渋り。引導は渡さない。引導を渡すのは社長

の俺だ、よく頑張った、後の面倒は全部見てやる、ゆっくり休め。

バカな野球選手がたまたま手にもっていたボールをそっと置いて、分かりやすく別れを告げるように、いらぬカメラとビデオカメラをそっと置いて第二の人生へ。

もったいないもったいない、カメラマンだビデオジャーナリストになる気は更々ないけど。他に自称プロ戦場特派員にはそっと置くものすらな...あった、ウンコつきパンツ！ 脱ぎ捨てたパンツ(もちウンコ付き)はできる男のステータスシンボル。私に取っては、コレガ金メダル、ヨッ、金メダリスト。

しばらく充電期間が放電期間、感電期間と出世魚のように！ビリビリしちゃう。

表面上の理由は音楽の方向性の違いで解散だが、本当はドロドロの人間関係に疲れちゃった。自分対自分の関係に。

無期限休業。活動自粛しちゃったとしても、こうして、世界初の戦場童貞の自称プロ戦場特派員が誕生した事実が変わりなし。

「どうせ本当は戦場に行くのが怖い」とか言ってる奴、一生戦場童貞のまま朽ち果てる覚悟を貫くのと、ヤケクソで戦場にひょいに行っちゃうのとどっちが大変か考えてごらん。ちなみに戦場たっていつもドンパチしてるわけじゃないんだぜ。だからこそ、激戦の最前線を目指す。戦場の後方でうだうだしてたって、戦場取材は戦場取材なんだけどね。

戦場を知るものは戦場だからと言って、いつもドンパチしているわけではないことを知っている、最前線ですらそうであるし、最近是最前線らしい最前線などない、形ばかり戦場に行って経験戦場数を増やすは容易いが、運命の戦場に会うまでは戦場童貞を貫く勇氣に、一生戦場童貞でもいい覚悟に感服しろ、山だって登ればいつも落石だ雪崩に合うわけではないように、ニートが世の中の大半がしている会社員や公務員、なんならフリーターをするのは容易いが、あえてニートを貫くイバラの道をゆくといい訳とは似て非なるもの。

クスッ、素直なんだね。考えるまでもなく、戦場の方が大変に決まってるだろ。

運命の戦場に出会わなければ、一生戦場童貞の自称プロ戦場特派員のままでもいいという悲壮の覚悟はまた裏を返せば、自称プロとは言え、戦場特派員なのに戦場に行かない合理的言い訳にもなる一石二鳥な優れ物ゆえに批判を受けるやもしれないが、そんな裏読み知ったこっちゃない。

臆病風、そんなものに吹かれたことはねえ、風はいつも逆風向かい風しかも北風だ。今更後戻りできない年齢まで待つ、それくらいの余裕、ハンドルの遊び、ためが欲しい。暗黒時代。

あんな誰でも簡単にヤラせる尻軽カレン戦場で手を打つ気はない。

他人の目を気にして、やり方を変えるなんてみっともない、見繕って適当な戦場で童貞捨てるくらいなら、堂々と戦場童貞のままでいる、もちゆえあつての戦場童貞だかね、戦場が怖いわけじゃないじゃん、運命の戦場なら喜んで先陣切って、最前線一番乗りですよ、今んとこ、運命の戦場はタイムマシーンがないと行けないんですけどね、早く次の運命の戦場が現れて、俺を思いっきりさらって！

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流

れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ～。

『12年前日記 2000年2月4日（金）』

<http://p.booklog.jp/book/43740>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43740>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43740>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.